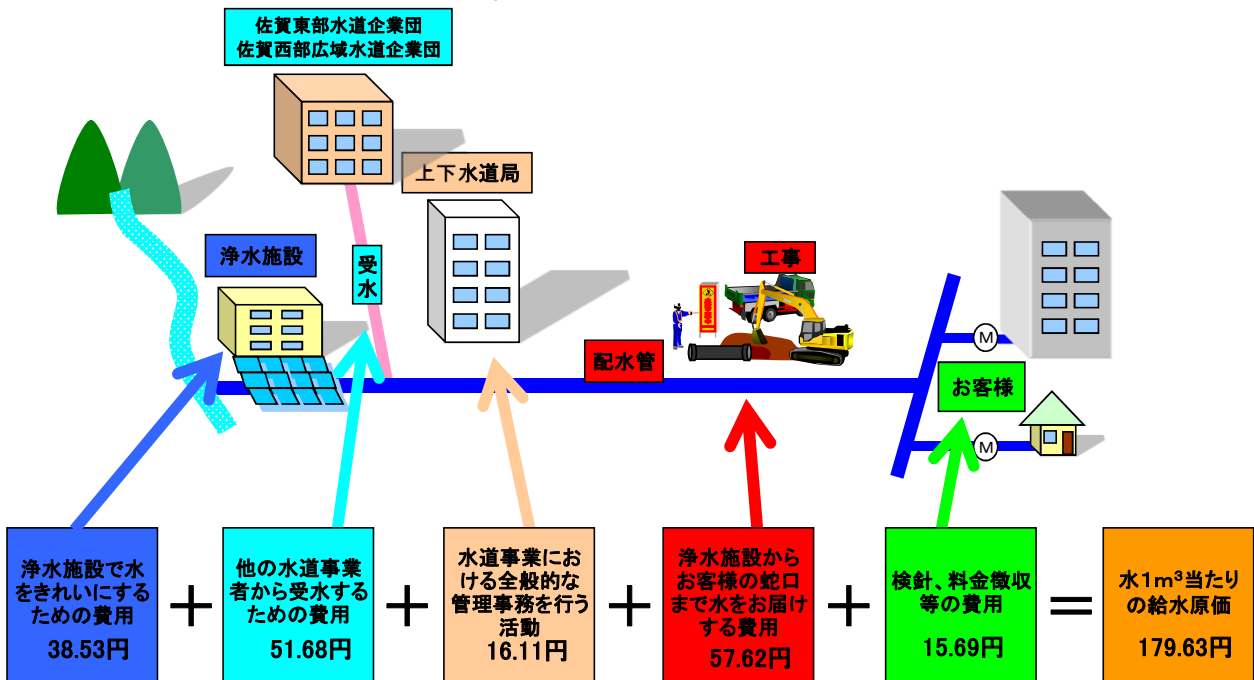


# ABC分析結果（水道事業） （令和5年度末現在）

※令和5年度決算（令和5年4月1日～令和6年3月31日）数値より

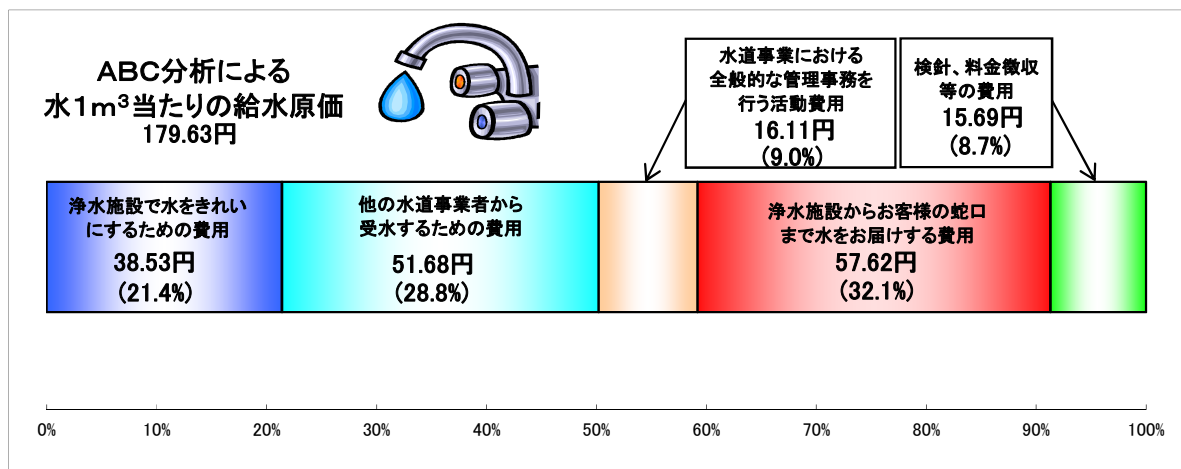
## 1. ABC分析のイメージによる結果



ABC分析給水原価（単位：円）

年間有収水量 19,930,488m³

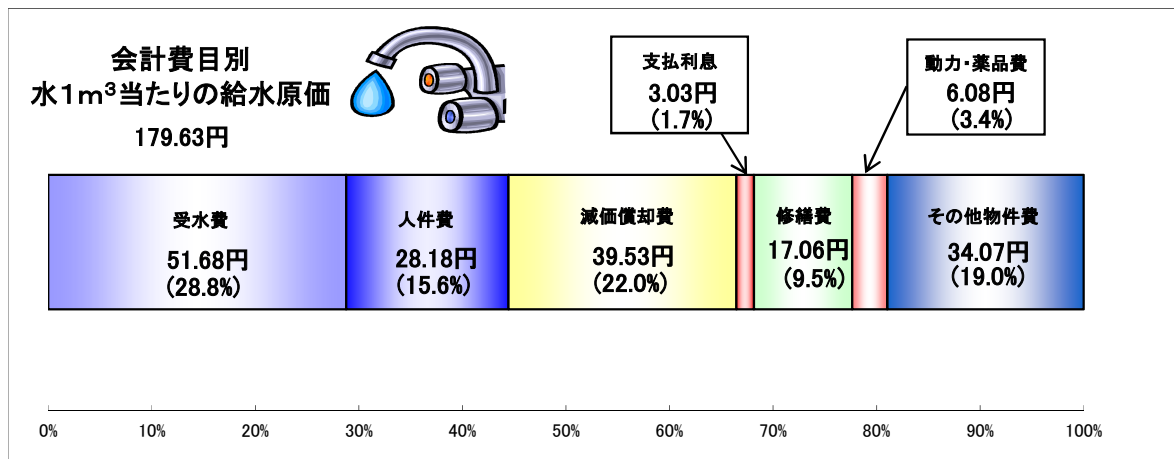
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	38.53	767,792,838	21.4%
他の水道事業者から受水するための費用	51.68	1,030,020,771	28.8%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動	16.11	321,127,911	9.0%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	57.62	1,148,458,480	32.1%
検針、料金徴収等の費用	15.69	312,702,272	8.7%
計	179.63	3,580,102,272	100.0%



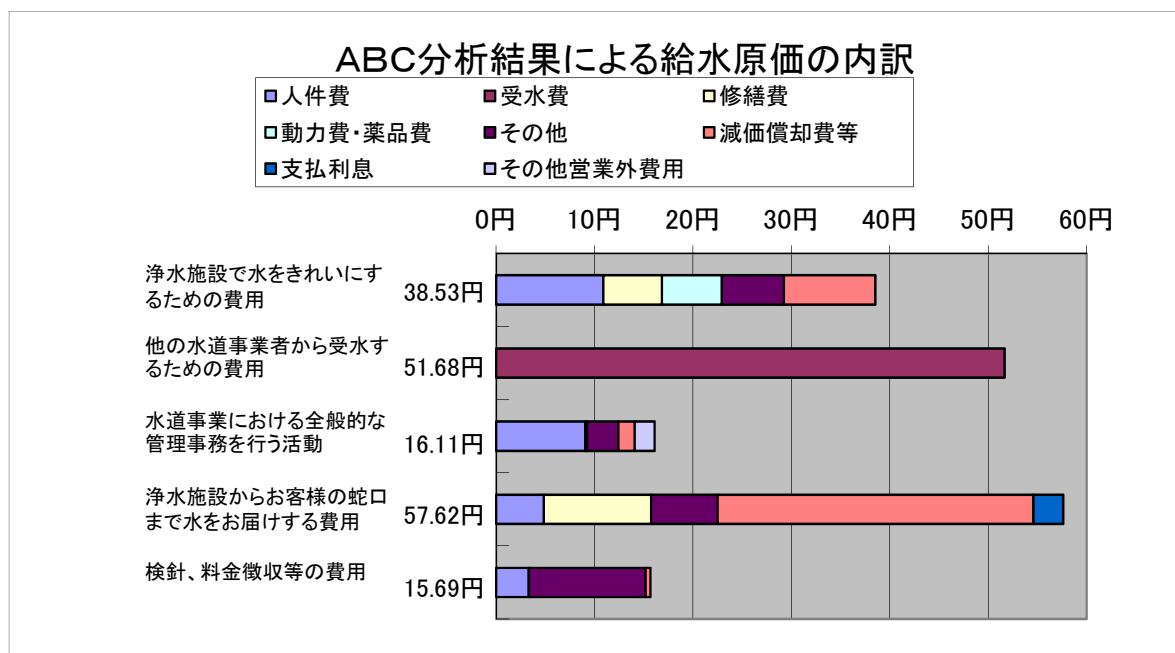
## 2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

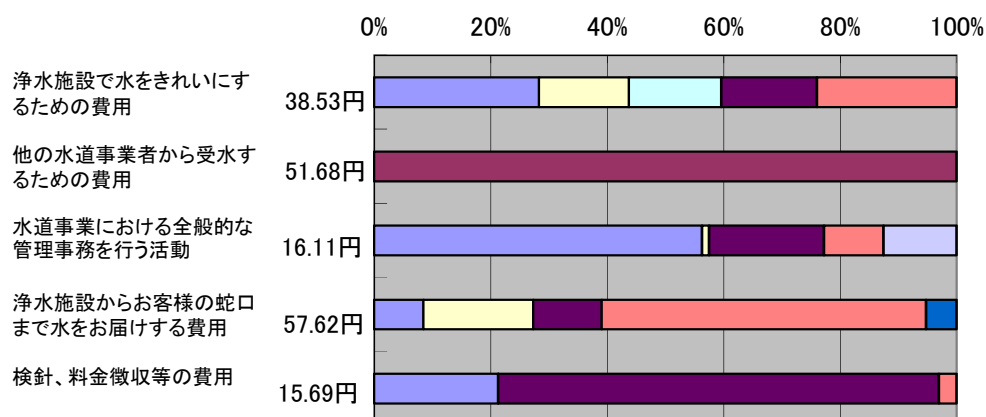
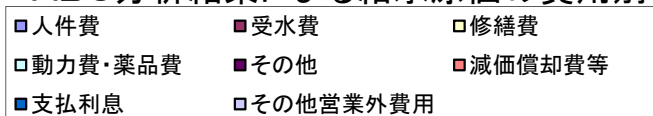
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
受水費	51.68	1,030,020,771	28.8%
人件費	28.18	561,681,646	15.6%
減価償却費	39.53	787,759,750	22.0%
支払利息	3.03	60,303,871	1.7%
修繕費	17.06	340,014,821	9.5%
動力・薬品費	6.08	121,209,044	3.4%
その他物件費	34.07	679,112,369	19.0%
計	179.63	3,580,102,272	100.0%



## 3. ABC分析グラフ



## ABC分析結果による給水原価の費用別割合



### 【分析結果】

給水原価は本年度179.63円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の32.1%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が21.4%と、これらの費用で全体の約半分(53.5%)を占めています。また、「他の水道事業者から受水するための費用」が28.8%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(28.8%)や減価償却費(22.0%)、人件費(15.6%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、これらの施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、「上下水道ビジョン」及び「水道事業経営戦略」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。